

第2回 姫路駅北駅前広場整備推進会議 議事概要

No.	項目	意見の概要
1	会議の運営について	レイアウトを示すことによる具体的なデザインについての議論に移行したほうがいいのではないかと、市でデザインコンセプトの案を取りまとめて提示していただくのがよいと思う。
2	基本コンセプトについて	<p>駅前広場を考えるに当たっては、周辺部も含めたかたちで考えなければならない。</p> <p>市バスの問題など、状況の変化に即した議論を進める必要がある。</p> <p>駅前広場を議論する場合、大手前通りと一体となった議論が必要である。</p> <p>周辺施設との一体的な景観形成を目指し、「デザイン都市・姫路」を目指してはどうか。</p> <p>機能とデザインに注意し、城と駅、歴史から未来をキーワードにまとめていくことが大切である。</p> <p>播磨の中心という位置づけや銀の馬車道などの南北の動線も考慮する必要がある。</p> <p>世界遺産姫路城を活かす。(過去への敬意の対象として、地域アイデンティティの象徴としての姫路城)</p> <p>播磨科学公園都市の母都市としての気概をもつ。(播磨科学公園都市と一体となることによる未来への期待と自信)</p> <p>国内外からの来訪者へのもてなしの心をもつ。</p> <p>地域に暮らす人々には、暮らしやすい質の高い「まち」を目指す。</p> <p>新幹線で姫路を通過する人々に対して、短い強いメッセージを発する。</p>
3	北駅前広場のデザインについて	<p>駅前広場に面したビルを建て替える際には、駅前広場のデザインコンセプトに沿ったものにしたい。</p> <p>景観デザインが洋風なのか和風のかなどについて決めていかなければならない。</p> <p>整備に当たっては、和か洋か、緑はどうするのか、鳥の糞害による観光客への影響はどうかなどを考える必要がある。</p> <p>地下街のデザインについては、サンクンガーデンと一体となるとともに、地下街に賑わいを取り戻すようなものを考えたい。</p>

No.	項目	意見の概要
		<p>駅ビルのデザインは、白壁など姫路城の特徴をモチーフに考えたい。</p>
		<p>施設デザインについては、ディテールは近代風だが建築は城を意識するなどの手法もある。</p>
4	北駅前広場に必要機能について	<p>バスターミナルの整備にあたっては、人の動線に配慮する必要がある。</p> <p>駅から城へは、サンクンガーデンが活かされる動線とすることが大事である。</p> <p>駅前広場は、交通結節点として大事な場所である。</p> <p>歩行者デッキは、くつろげ、高齢者や障害者に配慮した空間にしてはどうか。</p> <p>集まった人をどのように誘導するかを考える必要がある。</p> <p>観光客への配慮も大事だが、市民のことも考えるべきである。</p> <p>バリアフリーの観点で考えることが大事である。</p> <p>地下街には、通行したくなる仕掛けづくりが大事である。</p> <p>駅前広場には交通結節機能が大事、モニュメント等の設置は慎重に考えるべきである。</p> <p>交通結節機能が第一であり、人の動線を意識する必要がある。</p> <p>デザインコンセプトを考えるにあたっては、鉄道と鉄道・バス・タクシー・自動車など、他の交通機関との相互乗り換え、駅への歩行ルートと言った交通結節点機能を最優先に考えていただきたい。</p> <p>交通結節機能は大事であるが、自家用車の利用率が上がるなどの状況もあり、バス・タクシーなどの乗降場を必ずしも駅に接する場所に設置する必要はないのではないか。</p> <p>交通結節機能を駅西に集めることは、人が増えるという観点から賛成であるが、駅から駅西地区への人の動線は十分に検討する必要がある。</p>
5	次回会議について	<p>次回会議において、これまでの意見を取りまとめた市の案を提示する。</p>